

# 子どもを支え明日を創る

## みちのく未来基金 長沼代表理事に聞く

東日本大震災から3年2カ月を迎えた。震災では、240人を超える子どもたちが両親を失い、1600人を超える子どもたちが父母のどちらかを失った。孤児・遺児たちの「夢を失わせてはいけ



ながぬま・たかよし 1976年、カルビーに入社後、商品本部マーケティング企画部長、中部事業部長、取締役専務執行役員、上級副社長執行役員等を歴任。2011年10月、みちのく未来基金創設以来、現職。仙台市出身。

ない」と、公益財団法人「みちのく未来基金」では、大学や専門学校に進む子どもたちに、返済義務のない奨学金を給付している。代表理事の長沼孝義さんに、設立の趣旨と現在の活動を聞いた。

2011年4月20日に、友人がある企業の社長になるというので、仲間で激励会を予定していました。ところが、3月11日に震災が起こったのです。開催はしたのですが、「激励」どころの話ではなく、出席者全員が「何かしなければ」と言っているわけです。その時、仲間の一人、ロート製菓（大阪市）の山田邦雄会長が語りだしました。

「阪神・淡路大震災で被災したこと。関西の会社だったので、復旧・支援活動に貢献したい。復興支援活動に貢献したい。復興支援活動に貢献したい。」

と、被災した学校を回り始めたのです。先入観や予断を捨てて、現場に立って、そこから、やるべきことを考えようと、徹底して三陸沿岸地域を回りました。

支援の谷間みたいなものが見えてきました。高校を卒業するまでは、決して十分ではないかもしれないけれど、なんらかの支援がある。しかし、18歳を越える

よいはずはない。進学を希望するなら、その夢を奪ってはならない。そんな思いから、ロート製菓の山田会長、カゴメの喜岡浩二会長（当時）たちと奨学金をつくらうじゃないかということになりました。

### 被災者の目線

みちのく未来基金の特徴の一つは、「返さなくていい給付型の奨学金」であるということ。入学金も含め、卒業までの授業料などを全額給付します。我が国では貸与が一般的かもしれませんが、世界的にみると奨学金は給付型が普通です。

定員や試験による選抜はありません。震災で親を亡くし、大学や短大、専門学校に進学する生徒なら無条件で受給できます。家族の所得や他の奨学金を受けているかどうかなどの制限もありません。

支援制度の中には「世帯の主たる生計者の死亡」等

の条件があるものもあります。でも、外で働いていようが、主婦であろうが、親を亡くした「つらい思い」に違いはありません。

「民間」ということでいえば、民間企業の社会貢献活動については、毎年の業績に左右されがちです。実際、華々しいスタートを切ったのに、被災地支援から撤退していった企業や民間事業も少なくない。

役所の場合、税金を使うので、公平性を重んじるのは分かります。私たちは民

間です。簡素な手続きを、と考えたのです。健康診断書も省きました。

### 最後の一人」まで

「民間」ということでいえば、民間企業の社会貢献活動については、毎年の業績に左右されがちです。実際、華々しいスタートを切ったのに、被災地支援から撤退していった企業や民間事業も少なくない。

私どもの基金は、震災の時に生まれ、孤児・遺児となった「最後の一人」が最長、大学院を出るまで、つまり、2011年から25年間わたる長期的支援を目指しています。

後に参加されたエバラ食品工業（横浜市）も含め、4社が助け合って継続する決意です。

各社の公募に応じてくれた社員が、仙台市の事務所

# とてつもない苦しみと悲しみ、同時に優しさを経験した子どもたち。きつと強く、優しくなっ

